

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日 令和 5 年 6 月 2 日

公表 令和 5 年 7 月 3 日

事業所名 てあてるの芽 豊橋

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である		○		退職した職員の補てんが出来たが、新規児童も増えた為、新たに職員がいると望ましい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者さまから頂いた意見は、受け止めてサービスに繋げるように努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			今後も公開はしていきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			zoom等での研修会に参加し向上に努めています。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用児一人一人に対し、定期的支援会議を実施し、計画の作成をしています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			研修で学んだツールを使用するように努めています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		他事業所と連携をして取り入れるようには努めています。	それぞれ意見を出し合って立案しているが、定まってしまう所あるので見直していくように努めます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	他事業所と連携をして取り入れるようには努めています。	放課後等のプログラムが固定化してしまっているので、考えていく必要があります。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		毎日の朝礼や打ち合わせで可能な限りマンネリしないように決めています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別支援を行うとともに複数人数での遊びのルールなどを練習しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎朝、朝礼で確認しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎朝、朝礼で前日の振り返りに努めます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			ツールを使用して記録に努め、支援の検証や改善を行っています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		相談員と連携をしている。	モニタリングが出来ていないご家庭に対して、相談員と対応しているが中々改善がされていない為、これ自体を見直す必要があると考えています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			主に児童発達支援管理責任者が出席しているが場合によっては直接支援していた職員も出席する事もあります。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			連絡帳やつながるシートなるツールを使用して連携をしている児童もいます。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/			対象が児童が在籍していません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/			前例がありません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				研修までは取り組めていないが、子ども発達センターの職員とやり取りをして子どもや保護者に必要な情報の助言を受けています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				必要に応じ送迎時やLINE等で、やり取りをし子どもについて共通の理解に努めています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				契約時に、説明をしています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				定期的にモニタリングを行い、気になる点等の相談に応じ、職員と情報共有しながら支援を行っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			保護者会を設けていきたいと考えているが、中々できていないので、保護者が連携が取れる方法を今後をどうしていくのか改めて検討していきたいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				ブログやLINE等を通じて、情報を発信しています。
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○				

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルはあるが、周知が出来ていないと感じるので今後努めていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に数回、いろんな状況を想定して取り組んでいます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			市や県が主催する研修に参加したり、横のつながりの事業所と合同で勉強会を開いて防止に努めています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				対象児童が在籍していません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				対象児童が在籍していません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事故やケガがないように定期的に見直していきます。